

令和元年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立川越高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 我が校は、広い国際的な視野と自主的創造的な精神を身につけた「自立した学習者」(Independent Learner)を育成し、地域から信頼される進学校としての役割を果たします。
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 利他の心を持ち、行動する心構えと力をもつ、たくましい生徒 (川越高校生につけたい力) ☆ 自ら問題を見つける力、解決する力 ◎ 知的好奇心を持ち、知識を身につける力 ◎ 情報を収集し、分析する力 ◎ 物事を論理的に考える力 ◎ 傾聴・発信・協働する力
	ありたい 教職員像	○ 「文武両道」の活力ある進学校としての実績をさらに向上させ、地域の期待に応えることのできる教職員集団 ○ 個人の資質向上に努めるとともに、組織としての指導力が着実に向上し続ける教職員集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒> ほぼすべての生徒が、大学進学を志すとともに、部活動等の様々な活動にもチャレンジし、充実した高校生活を過ごしたいという気持ちを持っている。 <保護者> 生徒の進路として大学、特に国公立大学への進学を希望しており、安心安全な環境で、学習面をはじめ進路指導の充実を望んでいる。 <地域> 英語を武器にできるグローバル人材の育成を期待されるとともに、英語教育の先進的な取組の情報発信を求められている。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待 <家庭> 大学進学に向けた指導を充実させる一方、将来をたくましく生きる力をつけた生徒の育成を図ってほしい。 <中学校> 川越高校を志望する生徒に対しての情報提供を積極的に行ってほしい。 <地域・大学> グローバルマインドをもって地域社会を支える人材を育成してほしい。	連携する相手への要望・期待 <家庭> 家庭での学習習慣や、基本的な生活習慣を学校と協力して身に付けることができるようにしてほしい。 <中学校> 川越高校への進学を希望する中学生の要望を学校に伝えてほしい。 <地域・大学> 外部指導者として高校の授業、特別活動等を支援してほしい。
(3) 前年度の学校関係者評価等		・アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法について、個々の先生の取組を全体で共有し、協議し、提案していく仕組みづくりが必要である。 ・英語では、4技能をバランス良く取り入れながら、学習・指導方法の改善を進めるとともに、活動を多く取り入れた学習方法に対する生徒自身のマインドセットを促していく必要がある。 ・学校の改善活動には、教職員重視の観点が大切であり、年度途中に教職員満足度調査を実施して改善活動にいかしてほしい。	
(4) 現状と課題	教育活動	・国公立大学現役合格者は毎年 100 名を超えており、生徒は学習活動に熱心に取り組む姿が見られるが、受動的な姿勢が強く、自立した学習者を育てるための指導の工夫が必要である。 ・総合的な学習の時間を核としてキャリア教育を推進しているが、進路意識の育成や学習習慣の定着を図るため、教育活動全体を通じて学習や進路に対する内発的動機を喚起する取り組みが求められている。 ・命を大切にする教育を推進し、部活動や生徒会活動の充実をはじめ、生徒の自治能力や主体的な行動力、政治的教養の育成、ルール・マナー遵守の指導を充実することが不可欠である。	

	学校運営等	・教職員は、生徒の進路希望の実現のための授業や面談、部活動の指導等に日々邁進しているが、生徒・保護者や地域社会のニーズ把握、分掌間の意思疎通が十分でない面があり、学校全体の指導体制を検証して効果的な教育活動を充実していく必要がある。
--	-------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	- 一人ひとりの生徒が主体的に学習活動や部活動に取り組み、夢の実現に向けて継続的に努力するための学習環境づくりを推進する。 - 各教科・学年において生徒の学習状況に応じた効果的な指導方法の研究を深めるとともに、川越高校の指導方法を確立する。 - 国際文理科においては、総合的な学力のレベルアップを図り、グローバル社会をリードする人材育成に取り組む。
学校運営等	- 生徒につけたい力を常に意識し、教育課程や指導方法を検証して教育活動の質の向上を図るためのカリキュラム・マネジメントを確立する。 - I C Tを活用して生徒・保護者等への積極的な情報発信を行い、生徒や保護者との対話、教員同士の対話を活発に行う体制をつくる。 - 学校運営の在り方について協議する場を定期的に設けるとともに、教職員が意欲的に業務に取り組むために効率の良い組織運営を目指して過重労働の削減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)アクティブ・ラーニング型授業の実践・研究を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。 (2)生徒につけたい力を意識した教科横断的な学習指導のあり方について、各教科・学年が連携して実践・研究を進める。 (3)ICTを活用した効果的な授業づくりに取り組む。 【活動指標】 ・各教科及び教科横断的に行う授業研究。(各学期に1週間ずつ実施) ・国事業を活用した研究授業。(AL事業 年2回) ・ICT環境整備とICT活用事例の情報共有。(全職員) ・クラウドシステム「クラッシー」を活用した学習支援プラットフォームの構築。(全学年) 【成果指標】 ・授業での対話の中で自らの考えを広げ深めることができたと答えた生徒の割合 90%以上	教科をこえたグループによる授業研究、教科横断的な授業の推進、1・2年教室に短焦点型プロジェクタを設置。 6、11月に1週間ずつ実施 6、11、2月に実施 授業等におけるICT機器の効果的な活用 88.4%(1年 84.6% 2年 90.3% 3年 90.7%)	※ ◎
キャリア教育の充実	(1)次期学習指導要領が重視する探究学習を位置付け、3年間を見通したキャリア教育についての実践・研究を進める。 (2)教育活動全体を通じて自立した学習者を援助するキャリア教育を行うとともに、1年生については新入試を睨んだポートフォリオの作成に取り組む。 【活動指標】 ・面談を充実するための年間指導計画の整備。(全学年・進路) ・総合的な探究の時間における探究活動の実践。(1学年) ・「クラッシー」を活用したポートフォリオの作成。(1・2学年) 【成果指標】 ・将来の進路をイメージし、進路意識が向上し、学習習慣が定着したと答えた生徒の割合 90%以上	探究プロジェクトを発足して検討開始。 クラッシーを活用したポートフォリオについては改善を重ねて作成。 75.7%(1年 59.9% 2年 76.9% 3年 92.5%)	※

グローバル教育の充実	(1) 先進的な英語教育・国際理解教育を実践するとともに、国際文理科のスタディツアーのプレゼンテーションについて生徒の活動の在り方についての研究を進める。 (2) ライティングの指導及び評価方法の研究開発を行い、バランスのとれた4技能の獲得に向けた効果的な授業づくりに取り組む。 【活動指標】 ・大学・企業等と連携した特別授業の実施。(年5回以上) ・国事業を活用した研究授業。(教育課程研究事業年2回以上) 【成果指標】 ・まとまった英文を読み要約したり、英文で自分の考えを書いたりできるようになり、ライティングに対する自信をつけることができたと答えた生徒の割合 90%以上	国際文理科英語特別授業、シンガポールスタディツアーにおける英語プレゼンの充実。教育課程研究指定事業における実践研究。 5回実施 5回実施 96.7%(1年普通科 93.9% 230人中216人／2年普通科 99.6% 225人中224人)	※
------------	---	--	---

改善課題

・文部科学省事業「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの学習・指導方法の改善の推進」に取り組む中でICT活用や教科横断的な授業を推進することができたが、生徒アンケートの結果を学年・教科で具体的に検証しながら授業研究に取り組むことが不可欠である。

・キャリア教育の指標について1年生の自己評価が低いことから、毎日の学習時間調査等を活用しながら進路面談を充実させるとともに、様々な機会を通じて将来の進路に対する意識を醸成する必要がある。

・文部科学省指定により実施した教育課程研究指定校事業(外国語)の成果を活かすとともに、国際文理科だけでなく普通科や英語以外の教科においても、特別授業や研究授業を実施して教材や指導方法を工夫改善し、グローバルな視野を持った人材育成に注力する必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員の資質及び組織運営の向上	(1) カリキュラム・マネジメントに関する諸事項を検討する委員会を立ち上げ、ICT活用の取組等について提案する。 (2) 校内研修会を活発に行い、ベンチマーキングや外部研修での成果を全職員で共有する。 (3) メリハリのある会議の運営を目指すとともに、教員相互の対話を促し学校改革を推進する。 【活動指標】 ・カリキュラム・マネジメント委員会における検討。(月1～2回) ・アクティブ・ラーニング及びカリキュラム・マネジメントに係る全体研修会の実施。(年3回) 【成果指標】 ・カリキュラム・マネジメントに関する諸事項について理解を深めたと回答した教職員の割合 90%以上	CM委員会を中心とした授業研究の推進。研修会の充実、先進校視察の情報共有。分掌間の対話を重視した会議運営の推進。 全10回実施 3回実施(5月、1月、2月) 57.4%	◎ ※
地域・保護者との連携	(1) 生徒・保護者・教職員相互の情報共有を活発に行う。 (2) 挨拶・服装・マナー指導を徹底し、登下校指導、交通安全教育、防災教育の充実を図る。 (3) 中学生や地域への情報発信を積極的に行う。 【活動指標】 ・保護者・地域と連携した登下校指導。(年間) ・授業公開の実施。(年2回) ・中学生を対象とした学校見学会の実施。(年1回) ・「クラッシー」及びホームページによる情報発信。(年間) 【成果指標】 ・子どもの学習状況や学校の様子がよくわかると答えた保護者の割合 90%以上	クラッシーによる学習支援・進路情報の提供、交通安全指導、学校説明会の充実。 33回実施 2回実施(6、11月) 1回実施(11月) よくわかる 19.5% ややわかる 54.9%	※

働きやすい 職場環境 づくり	(1)従来の発想を変えて業務の整理と効率化を図ることにより、生徒の夢の実現を最大限支援できる組織を実現する。 (2)教職員の過重労働の解消に取り組み、有給休暇等を取得しやすい環境をつくる。 【活動指標】 ・オフサイト・ミーティングの実施。(各学期1回) ・一斉退校日を月1日設定し、その日に定時退校できる職員の割合を5%増加(87.1%<H30.4月～H31.1月の月平均>) ・部活動休養日を週1日設定し、予定通り休養した部活動の割合100%を目指す(100%<H30.4月～H31.1月の月平均>) ・放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合85%を目指す(76.2%<H30.4月～H31.1月>) 【成果指標】 ・月80時間を超える時間外労働者の年間の延べ人数を50%削減(66人/年<H30.4月～H31.1月の合計>) ・1人あたり平均の時間外労働を月2時間削減(34.0時間/人・月<H30.4月～H31.1月の月平均>) ・1人あたり年間の休暇取得日数を0.5日増加(16.75日/人・年<H30.4月～H31.1月の合計>)	分掌間の連携と行事・業務の精選。 有給休暇取得向上に向けた職場環境づくりと積極的な声かけ。 8月、3月 6.5%増(93.6%) 100% 91.7% 16.7%削減 (延べ55人) 月1.3時間削減 0.4日増加	※
改善課題			
・CM(カリキュラム・マネジメント)委員会のメンバーが核となって授業研究や全体研修会の充実を図り、ベンチマーキング報告会や国事業成果報告会などについても実施することができたが、教職員間の情報共有や対話の時間が不足していることから、学校運営の工夫改善が不可欠である。 ・働き方改革を推進する中で登下校指導のあり方を再考していくべきではないかという意見が出ており、保護者や地域と連携を図りながら今後の取り組み方法を検討していく必要がある。 ・生徒・保護者には定期的に情報発信することができたが、中学生や地域などに対して学校の取り組みを情報発信する機会が不足していることから、ホームページの充実などに力を入れていく必要がある。 ・事故発生後のマニュアルを作成して全教職員で共有するとともに、熱中症や感染症の予防、処置の仕方などの情報発信に努めたが、災害時の具体的な対応方法について生徒・保護者・地域への周知を確実にしておかなければならない。			

5 学校関係者評価

明らかに 改善課題と次 への取組方向	・アクティブ・ラーニングは形だけでなく本質的な取り組みが大切だと思う。中学生が憧れる存在として川越高校生の魅力を発信してほしい。 ・理想は自然体で生徒がアクティブになっていること、本を読むなど不易のものもしっかりと取り組む必要がある。 ・学校運営の活動指標が多く、目標の数値が高いように感じる。働き方改革の中で、教職員の仕事を減らしていくことも検討してはどうか。
--------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	・「川越高校生につけたい力」について、すべての教室に掲げたり、自己評価の項目として明示したりして、生徒たちが目標やねらいを意識して授業や諸活動に取り組むようにしていく。 ・ICT機器を有効活用して引き続きアクティブ・ラーニング型授業に取り組むとともに、教科を超えたグループによる授業研究を継続して実施し、授業改善の効果を検証していく。 ・大学等への進路実現を意識して生徒が主体的にポートフォリオの作成に取り組むよう促すとともに、探究活動の中で将来の進路に関連付けた取り組みを充実していく。 ・教科横断的な取り組みをさらに推進するため、全教科のシラバスを共有するとともに、英語科の取り組みを先行モデルとして観点別評価の研究に力を入れていく。
学校運営につ いての改善策	・CM委員会のメンバーを再募集して新体制でカリキュラム・マネジメントに取り組み、テーマごとに参加者を募り対話の機会を設けることにより教職員相互の意思疎通を活発にしていく。 ・登下校時の交通安全については、保護者や地域との連携を強化する中で、安全安心な学校づくりを第一に取り組んでいく。 ・生徒・保護者等への様々な情報発信について、文字だけでなく、取り組みの画像を加えてわかりやすく発信するとともに、ホームページの充実や報道機関への情報提供をはじめ、部活動、探究活動、地域連携行事について生徒による活動報告の場を積極的につくっていく。